

北陸石仏の会々報

第 24 号
平成13年9月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一 二一 一九七四

第24回例会報告

北村市朗

北陸石仏協会の第二十四回の例会が平成十三年五月二十七日、福井市で実施されました。

福井市には、本会創立以来中心になって活躍された大久保まさ子様がいるので、計画から教えを受けられると楽な気持ちでいました。

ところが、お電話したところご主人から病気の為療養中とのこと、ほとほと困り果てました。止む無く山本昭治さんに相談し、計画を作りました。準備不足でレジメも作成出来ずに、ご迷惑を掛けました。下見はしましたが、運転者が別だったので道に迷ったりして残念でした。今回の例会は笏谷石の現場ということで、参加者に笏谷石について総てを知って欲しいと思っただけですが、如何でしたでしょうか。

不動寺の磨崖仏は住職の好意で境内での写真撮影が許されましたが、笏谷石の昔の採掘現場ということが偲ばれました。次の江守中町の熊野神社は、時宗遊行派の来迎寺跡ということを知り

山本昭治さんが発見しましたが、その元となった石造品を見ました。案内して下さいました横山新七氏は旧知の方で、特に善光寺三尊仏のお顔が削り取られたのは、昔のバクチ打ちの仕業だろうとの説には興味がわきました。私の家の三尊仏も同様にお顔が削り取られています。福井市にあつたものです。時宗僧侶の名前を刻んだ一石五輪塔から確認したわけです。

続いての弁財天は、福井県としては一番大きくて、作品としても立派な物と思えました。さらに虎の墓という物は、越前式の月輪がすばらしいと思えました。福井県には、虎御前の伝説の地と称しているものは他にも数箇所あります。西光寺では十三石仏の内の七体がありました。一乗谷の石仏を思わせる立派な物でしたが、整理されていなくて残念でした。戦国時代の武将・柴田勝家の資料館を見学出来たのは予定外でした。妙観寺は層塔が無くなっていましたが、福井の歌人である楠曙覧の娘さんのお墓を確認しました。運正寺では室町時代の小さなすばらしい石仏を見ることが出来ました。笏谷神社では彫りの良い狛犬を見ました。足羽神社では慶長十七年作の燈籠を見ましたが、四百年近い歳月の為、銘は剥離していました。最近同様の物が武生市の大塩八幡宮(国の重要文化財)に有ることを知り

ました。元禄時代作の石幢も良い出来でした。瑞源寺の藩主の墓の笏谷石は超一級品で、一石から創り出された墓はさすが福井藩主ならではと思われました。

最後に、福井が生んだ継体天皇像の巨大なものには驚かれたことと思います。笏谷石の作品としては最大の物だと思いました。茶店での総会も、オデンを食べながらの和やかなものでした。

ここで、冒頭にも書きました大久保まさ子様が、八月二日に八十二才で亡くなられたことをお知らせします。まさ子様は笏谷石の原産地で生まれたので、北は北海道、南は山口県まで足を運ばれて、笏谷石について実にこと細かに調べられました。

「笏谷石造をたずねて」と、「笏谷石文化」と云う本にすばらしい報告をされています。実に温厚な方でいつもにこやかなお顔だったことが目に浮かびます。私達と福井での最後は、一乗谷の石仏群の見学だったと思います。研究紀要第二号一九九八年五月号にも「越前笏谷石」の投稿があり、笏谷石に寄せる進る様な情熱を感じました。

ただただ、大久保まさ子様のご冥福をお祈りしたいと思いません。
(武生市若竹町八一二一)

北陸石仏の会 第24回例会

福井市旧市内の石仏探訪参加者

石川県 山田 玉枝 南 外志雄 滝本 靖士

富山県 深山 節代 斉藤 善夫 平野 重二

坂本 幸作 平井 一雄 柳沢 栄司

尾田 武雄 南 金三 岡田 静子

福井県 北村 市朗 前田起さ子 早川 明子

15名



尾田氏のインタビュー記事が富山新聞に

当会の事務局長・尾田武雄さんが日本石仏協会の創立25周年記念講座に、これまでの研究成果を発表した。この講座には会員、平井一雄氏・源田孝氏も参加された。そのことについて、富山新聞平成13年8月14日付けに掲載されましたので報告します。

富山新聞 2001年(平成13年)8月14日(火曜日) 文化 (24)



砺波地方の石仏を案内する尾田さん(左) 庄川町内

日本海沿岸の北陸の石仏や民俗は、日本全体から見るとどのような位置にあるのか。地質学的には東日本と西日本のはさまにあるそうだが、北陸では方言も東日本の方言と西日本の方言が入り交じっています。方言だけでなく、食や民家、年中行事を調べても、北陸では地方によって東日本のものと西日本のものの差異がはっきりしています。

また、富山県の方言は西日本の方言ですが、経済的、文化的には関東に近づいている感じがしますね。中央紙では富山県で配られる

石仏公開講座で発表した研究成果を語る尾田さん 砺波市太田の自宅

学芸インタビュー

日本石仏協会の公開講座で研究成果を発表した 尾田武雄さん(53) (北陸石仏の会事務局長、砺波市)



東西文化の接点・北陸の石仏

日本石仏協会理事で北陸石仏の会の事務局長を務める尾田武雄さん。砺波市太田がこのほど、東京・西巣鴨の大正大で開かれた同協会創立二十五周年記念公開講座でこれまでの研究成果を発表した。演題は「東西文化の接点・北陸の石仏」。真宗王国の北陸に住み、民間信仰の石仏の調査に若いころから情熱を注いできた尾田さんに聞いた。

石仏公開講座で発表した研究成果を語る尾田さん 砺波市太田の自宅

富山県の石仏の特徴は何

新聞が関西版から関東版に代わったところもあります。石仏に関して言えば、北陸では十四世紀から十六世紀の石塔は関西系が圧倒的で、関東の影響を受けたものは少ないが存在します。富山県や能登に関東系の青石塔婆がありますが、後世に持ち込まれたものですし、高岡市の瑞龍寺の石廟前石灯籠は関西から運ばれたものです。このように、石仏も西の影響を強く受けながら、東西の影響が混在しています。石造物の東西の接点は愛知県、岐阜県、富山県にあると言えます。

関西版から関東版に代わったところもあります。

徳太子二歳像などです。石材は主に庄川町の金屋石(青色凝灰岩)を使ったものです。路傍の石仏でありながら、ほとんどがお堂に入っていることや、石仏の管理者が周知されていて、地蔵祭が継承されているほか、弥陀一仏の真宗王国なのに、石仏の種類がバラエティーに富んでいることも特徴です。県東部には庚申、県の飛騨境には道祖神が多いとも言えます。

県西部を中心に地蔵が非常に多く、幕末から明治時代にかけて爆発的に建立されたものです。不動明王、観音、聖徳太子二歳像などです。石材は主に庄川町の金屋石(青色凝灰岩)を使ったものです。路傍の石仏でありながら、ほとんどがお堂に入っていることや、石仏の管理者が周知されていて、地蔵祭が継承されているほか、弥陀一仏の真宗王国なのに、石仏の種類がバラエティーに富んでいることも特徴です。県東部には庚申、県の飛騨境には道祖神が多いとも言えます。

地蔵多い富山/今も生きる庶民信仰

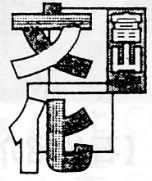
また、神通川の飛騨東街道、いわゆるフリ街道には馬頭観音、金毘羅、双体道祖神など珍しい石仏があります。飛騨の文化がダイレクトに入ってきたのでしょうか。ここは飛越

昨年五月に日本石仏協会主催の一泊二日の石仏見学会が砺波地方で開かれ、多くの会員に参加していただきました。会員の皆さんから富山県とりわけ砺波の石仏がきれいだと言われ、砺波の石仏を客観的に見る事ができるようになりました。砺波にはまだ地蔵さんに花を手向ける人が多く、庶民信仰が生きていると思われまます。これなら自信を持って東京で石仏を語れると思ったのです。

北陸石仏の会はどんな会なのか。どんな活動をしているのか。

平成四年十月に発足し、会員は富山、石川、福井、新潟に約百人います。これまでに例会を二十四回開き、会報北陸石仏の会会報を二十三号、会誌「北陸石仏の会研究紀要」を四号発行しています。

接点でもあり、北陸と東国の接点でもありました。一公開講座で発表することになったきっかけはなにか。



〈石仏紹介〉 12

【増富のかまど童】

わらし

柳沢栄司

今から遠い昔のこと。増富の地に人々が集落を造り始めた頃。一軒の家を建てるにも皆総出で力を合わせて建て上げていたそう。

ある時、一軒の家を建てようとする、ちょうど裏口に当たる所に、石を積み上げた小さな竈のようなものがあって邪魔になった。火を焚いた跡もある。「こんな所にこれはなんじゃろう」「だれかの竈じゃろうか」皆不思議に思ったが、一人が「きつと山神さんの竈かもしれない。そつとしとこう」と云い、心やさしい増富の人々はそれを壊さず、家の位置を変えて建てた。

その後、村人は家々の裏口に見なれぬ童が入り出すのを、たまに見ることがあった。そつと後をつけてみるのだが、いつの間にかその姿は消えていた。釜を竈にかけてまゝ忘れていたり、不思議と飯が炊けていたり薪が消えていたり、赤子の泣き声がやんだので見ると、見知らぬ童があやしているのを見ることがあった。人々はこの村にはかまど童がいて、家々を守ってくれるのだと、信じるようになった。

「あの竈は童だったのだ。こわさなくて良かった」皆がそう思った。童に守られてか、増富には昔から火事がないと、言われていると。

(山梨県須玉町増富ラジウム鉱泉で)

北陸石仏の会第25回例会案内

日 時 平成十三年十月二十八日(日)
集 合 富山駅北 午前八時

砺波駅南 午前九時

高岡駅南 午前九時三十分

福岡駅 午前十時

午後三時三十分

五千元

解 散
参 加 費
申 込 み

次の事項を記入の上、必ずハガキで申し込んで下さい。

住所・氏名・電話番号・集合場所

千九三九一三三五

砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

TEL 〇七六二一三二一三七七二

平成十三年十月十五日

〇 西砺波郡福岡町周辺の石仏

道端にある地蔵などの石仏

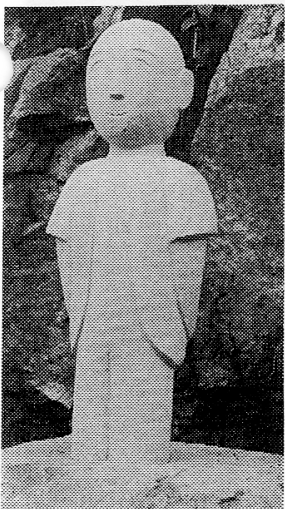
〇 高岡市柴野

天文二十一年の銘の入った千手観音

(高岡市指定文化財) 笏谷石製である

〇 高岡市江道の石造物

〇 手洗野 信光寺



【石仏紹介】

増富のかまど童